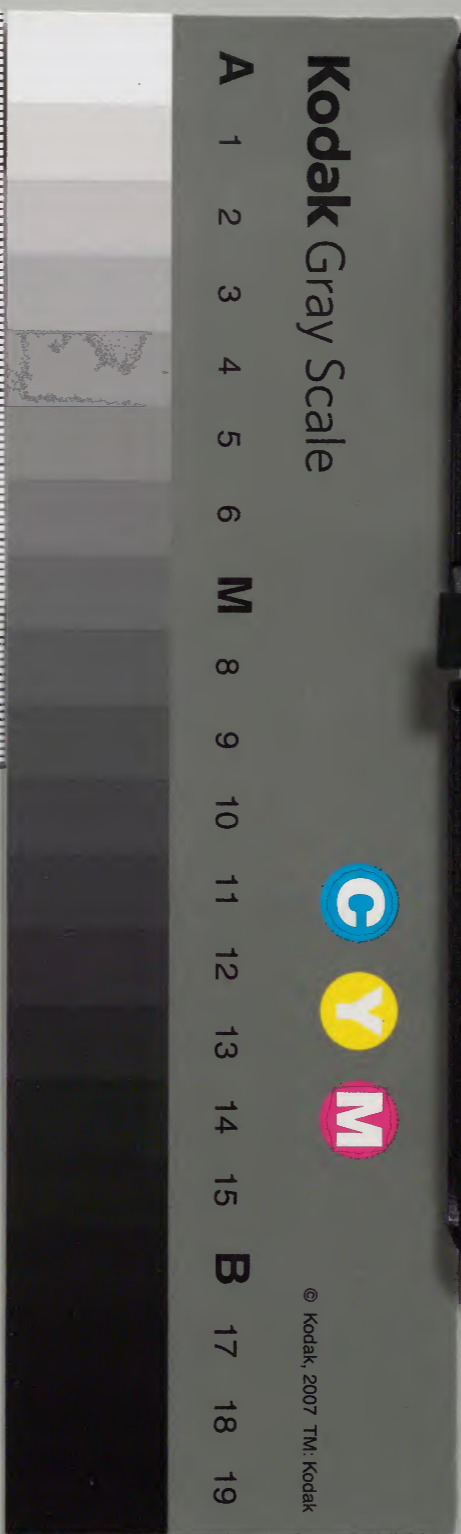


# 大成令

和書門			
八	一	二	
七	三	〇	
冊	架	函	號

内閣文庫			
一	二	和	
〇	二	書	
函	八	〇	
架	七	〇	
冊	架	冊	架

内閣文庫	
番號	和 220
冊數	87 ( 2 )
函號	265 279



合

一

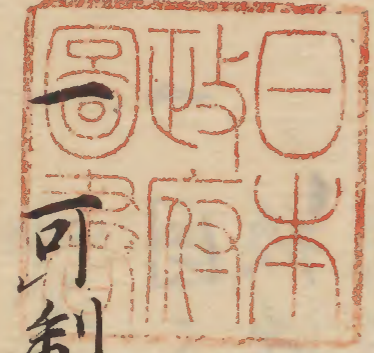


大成令卷之一

武家諸法度之部

武家諸法度

一 文武弓馬之道者之相嗜事



一 可制群飲佚遊事

左文右武古之法也。不可不兼修矣。是武家之要樞也。雖兵為凶器，不得已而用之。治不志亂，何不勵修練乎？  
令條不載嚴制殊重。耽好色業。博奕。是亡國之基也。

一 肖法度之車不可隱置於國之事

法是禮節之本也。以法破理以理不破法。肖法之類其科不輕矣。

一 國之大小名並諸給人各相抱之士卒有為叛逆殺善人者之速可追出事

夫挾野心之者為西復國家之利器。絕人民之鋒刃也。豈足允容乎。

一 自今以後國民之外不可交他國者事。凡因國其風是矣。或自國之密事告他國或以他國之密事告自國。俛媚之萌也。

一 諸王之居城惟為修補必可言上況新規之

攝管望令停止事

城邑百雜國之害也。峻墨<sup>クワシ</sup>波<sup>フウカシ</sup>湟大<sup>ハ</sup>亂本也。

一 於隣必企新儀結託黨者有之。速可追出事。人皆以黨又少違者是以不煩君又或及遠干隣里不守舊例何企新儀乎。

一 私不可締<sup>ヒ</sup>婚<sup>ケル</sup>事

夫婚合陰陽和因之道也。不可容易。睽日匪冠昏媾志將通冠則失時。桃夭男女。

以正婚姻以時國無繇民也以緣成黨是  
共謀之本也

一 諸大名系勤作法事

續日本記ノ制曰不預公事恐不得集已族  
系裡武拾騎以上不得集行云云然則不可  
引卒多勢百石以下二十石以上不可過  
二十騎拾石以上不為其相應蓋公役  
ノ時者可隨其分限矣

一 衣裳之科不可混亂事

君臣上下可為格別白綾白袖紫袷裳裏

練無紋之小袖無御免元袷不可有是用近  
代帛從諸卒綾羅錦繡之帛服非  
古法甚制焉

一 雜人恐不可乘輿事

古來依其人每御免系敷有御免以後  
系家有之他迎來及家帛諸卒乘輿祇  
濫吹之玉也於向後國大名以下一門之歷々  
士不及御免之系其外吹迎之元花醫  
陰之友道或六十以上之人或為者亦御免以後  
可乘之家帛從卒恐令乘之其主人之誠度





- 一 向有之族之或也一或之進出也
- 一 陪臣侍人而飲之者及進取刑之者之親之也
- 一 若由度之難道者而斬戮之者之由之也
- 一 知之内者法康沙法之者非法也罰之者衰弊也
- 一 乃路御馬由梁木之由地之者其罪也停滯也
- 一 和之實不新法津而割禁之事
- 一 大石石積以之之和停也之事
- 一 法書教也之支社取自古之今亦附來之向後也
- 一 大政事
- 一 萬事如法之法行也者之亦之也之事

- 一 耶蘇宗之者也之亦法之禁也之事
- 一 孝之者也之之處罪科事
- 一 由事之准南家之由之之所定也之是也
- 一 法之由之也

元和二年己巳年六月廿日

武家法法

- 一 文武弓馬之乃也之亦等事一在文武古也
- 一 武之氣氣油後弓馬是武家之要樞也其由也
- 一 器之乃已而用之治之忘乱也勿修練也
- 一 大名之在也其變也其定也每年其四月廿一也









一 家業承継之既乱自後之今日之承継法其已之徳  
其給其妻其保其及小神保其之也 事

一 宗廟承継之既乱自後之今日之承継法其已之徳  
其給其妻其保其及小神保其之也 事

一 宗廟承継之既乱自後之今日之承継法其已之徳  
其給其妻其保其及小神保其之也 事

一 宗廟承継之既乱自後之今日之承継法其已之徳  
其給其妻其保其及小神保其之也 事

一 宗廟承継之既乱自後之今日之承継法其已之徳  
其給其妻其保其及小神保其之也 事

三三事

一 宗廟承継之既乱自後之今日之承継法其已之徳  
其給其妻其保其及小神保其之也 事

一 宗廟承継之既乱自後之今日之承継法其已之徳  
其給其妻其保其及小神保其之也 事

一 宗廟承継之既乱自後之今日之承継法其已之徳  
其給其妻其保其及小神保其之也 事

一 宗廟承継之既乱自後之今日之承継法其已之徳  
其給其妻其保其及小神保其之也 事

一 宗廟承継之既乱自後之今日之承継法其已之徳  
其給其妻其保其及小神保其之也 事

右條之准當或人制之旨及個色之定之  
沈黙のありし事也

寛文三年六月廿三日

武家法法度

- 一 文武の考と局 一 正統儀事
- 一 多和交替一毎毎年一了定不 時此儀を  
負取ふる及懸多ノ事
- 一 人馬の力ふる限ノ懸 一 正統儀事
- 一 新親ノ城邦構置此其ノ在城置懸之儀  
故儀ノ時此儀の在否を意也 樽儀ノ事

武家親之儀補事

- 一 企新親法流儀成誓約其於 実刑法流の懸  
に戸籍の事と懸 成儀ノ事 大儀之懸集事  
一 事ノ事 市ノ事 知事ノ事 地所ノ事 刑罰ノ事  
一 事ノ事 出方ノ事 控使ノ事 大儀事
- 一 喧嘩は論系法儀ノ事 陣陣割事ノ事 其儀  
子細ノ事 一 事ノ事 其儀ノ事 其儀ノ事 其儀ノ事  
一 事ノ事 一 事ノ事 一 事ノ事 一 事ノ事  
一 事ノ事 一 事ノ事 一 事ノ事 一 事ノ事

附記ノ事 一 事ノ事 一 事ノ事 一 事ノ事 一 事ノ事

古所... 戸... 許... 事

一 戸... 公家... 事

一 戸... 事

一 戸... 事

戸... 事

地... 用... 事

一 戸... 事

一 戸... 事

戸... 事

一 初に平智信康沙法に於て其の事とを衰弊を治す馬  
楊叔亦其の法とて其の事

附新法に外大船を出入親信の事

一 法を教て寺社願月古玉として其の事  
大教の編輯地とて社建立法を信じて其の事  
子細を以て其の事

一 其の事無くして法を教て其の事  
右條とて其の事

天和三年七月廿五日

武家治法

一 文武の法と備り人論を明かす一 國法を以て  
すべし

一 國法を以て其の事  
然若とて其の事

一 軍法の兵とて其の事  
其の事

一 其の事  
其の事

附に其の事  
其の事

一 新築、城郭、兵、延、養、す、事、と、徳、を、修、補、す  
む、く、培、土、居、る、位、を、上、裁、と、作、く、一、矢、倉  
門、原、未、割、治、と、あ、ら、う、事、

一 附、乃、孫、橋、濱、人、馬、不、少、及、厚、以、私、の、賞、列  
津、南、未、注、来、の、煩、と、な、ま、し、の、使、を、公、使、私  
の、不、音、解、と、こ、の、大、私、と、送、入、ら、う、事、  
一 大、お、法、及、法、書、の、以、余、権、解、お、治、ら、う、事、  
公、使、と、修、ら、う、私、と、賞、と、一、以、同、列、相、和、も、さ、う、  
私、使、と、令、ら、う、と、あ、ら、う、事、  
一 具、員、あ、ら、う、以、本、其、威、事、不、殊、智、ら、う、事、

精、勤、す、く、事、

一 貨、賄、と、納、ま、て、権、解、の、力、を、修、ら、う、事、  
一 同、家、の、物、を、求、む、皆、是、邪、法、と、察、す、て、以、私、と、賞、ら、  
ぶ、事、の、一、つ、て、傷、ら、う、事、

一 附、上、裁、と、作、ら、う、事、  
一 中、外、或、以、人、を、さ、ま、に、私、に、執、ら、う、事、  
一 一、月、奉、給、年、滿、む、た、と、以、理、運、の、中、條  
一 一、つ、と、以、私、と、賞、ら、う、事、

一 群、臣、使、を、其、旧、割、取、ら、う、事、  
一 競、ひ、と、私、割、と、あ、ら、う、事、



んも高し人我の去来を論一 竊に時事の  
得失を論を風を傷俗を治るる是より事  
きいなり 是より其心をか少くも事

一 松岡百生の御痛に感ずるの裁りし事云  
地味は係ふおろく或は各地の風土を  
或は其死の由りを今一に評定しし事ある  
一 亦一 邪もふおろく評定しし裁り  
し事あり

一 戦境の遠近に罪の追捕を所望する事論  
はる事あり

附かきしは漢と業ははれ事にはふし  
事

一 義非たの要を討つ事本宗に或は地或は  
以て者も亦とありて事あり速く事あり  
はと事あり 若し刑罰の事あり討つ事あり  
私に事あり 是れは事あり 是れは事あり  
の事あり 是れは事あり 是れは事あり  
は事あり

附かきしは漢と業ははれ事にはふし  
事

事し一物へては長き同席の人ありふ  
とてしるべき事いふ事いふ事いふ事  
制服よあつて事

一 衣服居室の制は専ら法被の類或は浴衣小  
及ひ或は袴まきと皆是種女の事はしるべき事  
あつて事ありとせしむべき事ありとせしむべき事  
附衣服の制は公儀より白後之流の白袖と  
用ひしものより白は白袖は表袴は白  
袖と用ひしものより白は白袖は表袴は白  
袖と用ひしものより白は白袖は表袴は白  
袖と用ひしものより白は白袖は表袴は白

制は準はしるべき事

一 系樂の制は凡石をてしるべき事  
附法はこの場よりしるべき事  
しるべき事いふ事いふ事

附医師傳家の制あり事

一 婚調の凡石をてしるべき事  
おれとおれをてしるべき事いふ事  
人とおれをてしるべき事いふ事  
法を約を定むるべき事いふ事  
て事よりしるべき事いふ事

附を母の依増を後とする或は御成のより  
かと論一或は資は家の存否を論一  
しつては後おありするは婚とありしを  
策の聲依一切は兼治する事

一 継嗣はもも孫お出ずるは論する事  
少くもその不同性の中を論する事  
撰むへ一凡十七集より一  
のを撰て現存のりより一  
実子より一  
あくくく後より一

家人系評定のことと云ふ義と作りへ一  
清く不評をおる一  
時と論する事  
一  
初号地より一  
一  
附同姓の半姓嗣  
同姓は準一  
一人一  
と云ふ一















一 洋船ありしは去りて連日と多し是事

一 百姓公事御言自今より御言のてりて改訂年々

お改訂百姓公事いふことと教書改訂

お改訂と御言一書改訂年々いふこと無の事と云

海へ出る洋船ありしは去りて御言のてりて改訂

一 御言の事と御言の事と未訂及忘却

し御言の事と御言の事と未訂及忘却

すくく御言の事と御言の事と未訂及忘却

一 法流堂の御言の事と御言の事と未訂及忘却

の御言の事と御言の事と未訂及忘却

一 大牙の御言の事と御言の事と未訂及忘却

の御言の事

一 歩の御言の事と御言の事と未訂及忘却

本御言の事

附言改訂の御言の事

中官の御言の事

一 御言の御言の事と御言の事と未訂及忘却

の御言の事

一 御言の御言の事と御言の事と未訂及忘却

の御言の事

了案罪科也

寛永十二年十二月十二日

條

- 一 右考より申し礼法たるは是より長裁裁之旨を  
取理せしむるは内法と称しては事
- 一 軍法の定法より決地陸甲冑馬皆具礼法共具手  
人積まざる可事
- 一 共具より文符より形より言より後約より下  
知の換毛式取換或大事禁人より事  
失墮は若別件より知ありて進建威中公強勅

申すは内法事也

- 一 居作し言より及事奉内法法限事
- 一 嫁娶より式より及事奉自ら法法限事
- 一 既候より事より長柄より雲より長柄事
- 一 振舞より居より事容態より事
- 一 金銀彩文事送花席中地味事
- 一 けい本より事危用控事
- 一 かしらより酒杯事
- 一 高座より事







